

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 5 号)

1 昭和58年9月30日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 神田 守隆	2番 田沢 勝信
3番 山中金治郎	4番 日下 君敏
5番 川名 正二	6番 生稻 隆
7番 榎本 春光	8番 小宮 利夫
9番 福原 勤	10番 横溝 功
11番 飯田 義男	12番 石井 謙
13番 石井 昌治	14番 伊藤幸太郎
15番 渡辺 昭夫	16番 松下 正己
17番 近藤 好雄	19番 黒川 平治
20番 石井 武敏	21番 吉田勇治郎
22番 林 豊	23番 伊賀 多朗
24番 流山源次郎	25番 五十嵐 昇
26番 石井 正	27番 安西 益男
28番 安澤 徳順	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

第1号に同じ

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第5号)

昭和58年9月30日午前10時開議

日程第1 議案第49号 昭和58年度館山市一般会計補正予算(第2号)

議案第36号 館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について

議案第37号 館山市コミュニティセンター設置条例の制定について

議案第38号 館山市勤労青少年ホームの設置及び管理に関

		する条例の制定について
	議案第 39 号	館山市学習等供用施設の設置及び管理に関する条例の制定について
	議案第 40 号	館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 41 号	館山市婦人会館設置条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 42 号	館山市図書館条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 2	議案第 43 号	館山市立博物館設置条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 44 号	館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 45 号	館山市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 46 号	館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 50 号	昭和 58 年度館山市老人保健特別会計補正予算（第 1 号）
日程第 3	議案第 47 号	館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 48 号	公有水面埋立免許に関する答申について
	認定第 1 号	昭和 57 年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
	認定第 2 号	昭和 57 年度館山市国民健康保健特別会計歳入歳出決算の認定について
	認定第 3 号	昭和 57 年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
日程第 4	認定第 4 号	昭和 57 年度館山市と畜場特別会計歳入歳出

決算の認定について

認定第 5 号 昭和 57 年度館山市ユースホテル特別会計
歳入歳出決算の認定について

認定第 6 号 昭和 57 年度館山市学童災害共済事業特別会
計歳入歳出決算の認定について

認定第 7 号 昭和 57 年度館山市水道事業特別会計収支決
算の認定について

認定第 8 号 昭和 57 年度館山市国民宿舎事業特別会計収
支決算の認定について

日程第 5 議案第 51 号 館山市教育委員会委員の任命について

日程第 6 議案第 52 号 館山市名誉市民の称号を贈ることについて

開 議 午前 10 時 26 分

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数 27 名、これより第 3 回市議会
定例会第 5 日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議案の配付

○議長（石井 正君） 議案を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 1、議案第 49 号昭和 58 年度館山市一般
会計補正予算を議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました議案第 49 号は、去る
9 月 20 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより議案第 49 号に対する総務委員会における審査の経過
並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

(総務委員会委員長横溝 功君登壇)

○総務委員会委員長(横溝 功君) 去る9月20日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第49号につきましては、26日総務委員会を開催し慎重審査の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

衛生費中じん芥処理費に関連して、ごみの収集ステーションに出された不燃物のごみを市内の業者らしきものが回収しているが、その後残ったごみが散乱しているし、また回収作業が交通渋滞の原因にもなっていると思うがどうかとただしたところ、市ではごみの量が減少するということで規制をしなかったが、今後はこれらの問題について調査し、指導していくとの答弁がありました。

次に、農林水産業費中の自然休養村整備工事費並びに備品購入費について、その購入及び設置の計画と農産物直売所及び体験施設について説明を求めたところ、自転車の購入については、市は花卉園場、ハウス等を布沼、坂井、小沼、上郷、藤原の5カ所に設置して観光客の利用に供したく考えておるが、これらの場所を線で結んでいくという考え方から自転車35台を購入し、観光客の利用に供しようとするものである。自転車の利用料は半日500円、1日800円を考えている。

格納庫については相浜ゲート付近、神戸農協の管理センター、伊戸付近の3カ所に設置したい。1カ所5坪程度のものを考えている。

農産物直売所については69平米程度のものを考えており、休憩室を設けるとともに案内業務を行う考えでいる。なお、直売するものは花を中心として地域の農産物も考えており、農協と協議して運営していきたい。

体験農園施設については、とりあえず学童の農園を開設したい。将来は観光客の体験施設にも利用させたいとの説明がありました。

さらに、自転車並びに直売所の管理と自転車貸し出しの採算制について尋ねたところ、管理は農協に願います。自転車貸し出しの採算制は日東交通、ユースホステルで行っているが、採算はとれるものと考えているとの答弁がありました。

次いで、これらは新しい試みでもあるので遺漏のないよう綿密な計画の

もとに実施されるよう強く要望いたしました。

次に、水産業費中、内房地域栽培漁業推進協議会負担金について、将来の水揚げ高をただしたところ、今回は館山の漁協関係で5万匹放流するが、県の説明によると、その90%が5^{km}の範囲内にとどまるとのことだった。しかし新規事業でもあることから、将来の水揚げ高は経過を見ないと何とも言えないとの答弁がありました。

次に、異型魚礁設置事業補助金について、魚礁設置の効果について資料を持っているかをただしたところ、データは持っていないが県で全県的に行っている事業でもあり、効果があるものと信じて実施していきたいとの説明がありました。

次に、土木費中、県道富津館山線改良期成同盟の負担金について、この期成同盟会はいつ結成されたのか、また将来どのような構想を持っているかをただしたところ、昨年富津と鴨川で同盟をつくり1年間陳情等を行ってきたが、やはり沿線5市町村で組織されないと効果が上がらないということから、本年10月に結成されることになった。沿線の5市町村で組織し、5市町村選出の県議会議員と館山、君津、鴨川の土木事務所長を顧問にと考えている。いまの段階では、はっきりとした構想は持っていないが、急勾配、屈曲また幅員の狭いところが多いので、できるだけこれを解消していこうということを考えているとの答弁がありました。

なお、127号バイパスがなかなか実現困難な状況にあるだけに、この県道の改良を最大の目標にしていっていただきたいと思うがどうかとただしたところ、127号バイパスについては鋭意努力しており、極力早期に実施したいと考えている。現存道路を拡幅、整備することは、127号線の補完的な作用ばかりでなく、内陸地との関連で大切なことでもあるので、こうした機関を通じて努力していきたいとの考えが述べられました。

教育費中、豊房小学校通学用道路用地購入費についての説明を求めましたところ、豊房小学校を中心に戸から南条に至る間約640mの道路拡張のための改修費であり、取得予定面積は1277.21平米である。なお現在の幅員は4m程度であるとの答弁がありました。

そこで、他の地域においても改修の必要な箇所があったら善処するよう強く要望いたしました。

以上、本委員会に付託されました議案につきまして総務委員会の審査の概要を申し上げ、満場の御賛同を賜りたくお願い申し上げ、総務委員会委員長報告といたします。

○議長（石井 正君） ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 議案第49号昭和58年度館山市一般会計補正予算第2号に反対の討論をいたします。

歳入歳出それぞれ1億1994万4000円を追加補正しようとするものでありますが、その中身を見ると、たとえばいま重要な社会問題となっております痴呆性老人対策の問題などで短期入所措置が予算化されるなど今後に期待がされる施策も含まれているところであります。

しかし、同時に社会体育施設利用料や市民センターの使用料の値上げ、住民票などの手数料の値上げなど、新たな住民負担を含むなど重大な問題点を持ったものとなっております。住民への新たな負担転嫁に反対を主張し、この議案に対する反対の討論といたします。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。

以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

議案第49号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(石井 正君) 起立多数であります。よって議案第49号昭和58年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第2、議案第36号乃至議案第46号及び議案第50号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました各議案は、ともに去る9月20日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長石井武敏君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長石井武敏君登壇)

○文教民生委員会委員長(石井武敏君) 去る9月20日の本会議におきまして文教民生委員会に付託をされました議案の36号から46号まで及び議案50号につきまして、9月22日文教民生委員会を開催しまして議案の審査を行いました。その経過並びに結果について御報告を申し上げます。

まず、議案の第36号についてであります。住民票1件当たりのコストについて当局に説明を求めましたところ、人件費が173円16銭、物件費が29円93銭であり、諸経費として10%を見込み、223円40銭であるとの答弁がありました。

次に、地方交付税の算定基準の中では使用料についてはどのようなになっているかと質問をしたところ、戸籍の謄抄本については200円、住民票については120円となっている旨答弁がありました。

また、手数料の値上げは全国的な傾向のものかという質問に対し、それぞれの市町村が手数料を改正したいということから、その基準になる戸籍手数料の改正を国に対し要望していた経過があり、全国の市町村においても改正を予定しているものと考えている。県内ではすでに8市が議決され

ており、それ以外についても 9 月の議会に提案されているものと考えている。値上げによる増収は約 1 0 0 0 万円と見込んでいる等々と答弁がありました。

なお、窓口でのサービスの改善等を含め、市民の納得のいくような方向で努力されたいとの要望があり、討論に入りました。

討論は、地方交付税の算定基準よりも多い手数料を徴収することは、交付税を受けた上にさらに住民の負担をさせるということで、結果的に二重負担を強いることになるという反対討論と、値上げの幅は時代に即したものであり、市民生活に影響はないと考えるという賛成の討論がありました。賛成多数をもって原案どおり可決をいたしました。

次に、議案の 3 7 号については、コミュニティセンターの施設を十分に生かした青少年健全育成事業の振興策についてどのように考えるかという質問に対しまして、今後この施設が十分活用されるよう、十分配慮して進めたいとの答弁がありました。

本議案は、全員一致をもちまして原案どおり可決をいたしました。

次に、議案の第 3 8 号につきましては、休館日を毎月の第 3 日曜日としているが勤労者のための施設であり現実にそぐわないのではないかという質問に対しまして、第 3 日曜日は家庭の日とし、家庭において親子の触れ合いを持っていこうということが国、県、また当市の青少年問題協議会で提唱されており、休館日とした旨説明がありました。

本議案は、全員一致をもちまして可決されました。

続いて、議案の第 3 9 号につきましては、施設の運営について説明を求めましたところ、公民館の類似施設という位置づけをしてもよいと思う、公民館は独自で事業を計画し実施するが、学習等供用施設は独自の事業を持たず、住民が集会、研修会等を行う場合に施設を提供していくものであると答弁がありました。

なお、質疑の中で、ボランティアグループのために活動の拠点となる場所を提供してもらいたい旨要望があり、本議案に関しては全員一致をもちまして原案どおり可決をいたしました。

次に、第 4 0 号につきましては、青少年健全育成事業は日曜日を主に実施されているのが現状だが第 3 日曜日を休館日とすることについて配慮で

きなかったかとの質問に対しまして、第3日曜日が家庭の日であることの趣旨を住民に理解してもらうよう考え休館日とした、また特別の理由があるときは休館日の変更もできる旨答弁がありました。

本議案は全員一致で可決されました。

次に、議案第41号についてであります。従来は婦人団体連絡協議会に管理委託するとありましたが、他の団体への委託を考えているかとの質問をしたところ、基本的には婦人会に委託をしていく考えであるが、今後問題が出た場合婦人会以外の社会教育団体にも委託できるものと考えていると答弁がありました。

本議案は全員一致をもちまして可決されました。

次に、議案第42号についてであります。年間どのくらいの図書を購入しているか、また廃棄しているか説明を求めましたところ、58年度は図書購入費は900万円で約4000冊購入、廃棄するものは年間約300冊であるという旨が説明がありました。

また、駐車場を整備できないか、駐車証を発行できないか等質問したところ、図書館利用者以外の者が利用している実態もあり、図書館協議会に図り利用しやすいよう検討する旨答弁がありました。

本議案は全員一致をもちまして可決をいたしました。

議案第43号については、共通観覧料とした理由、また有料にした根拠について説明を求めましたところ、博物館の運営は本館、分館ということではなく一本で運営しているので観覧料も共通でなければならない、また有料については展示資料の購入が多額になるのでその一部に充当するためである、千葉県では無料であるが、関東近県では有料が多い等答弁がありました。

本議案は、博物館は無料が本来のあり方だという反対討論があり、起立採決の結果、賛成多数をもちまして可決いたしました。

次に、議案第44号につきましては、使用料が2時間ごとに設定された根拠について、従前の利用実態を検討した上で設定したかどうか、利用時間によって負担の公平を欠くと思うがどうかとの質問に対しまして、当局の答弁は、施設を使用する場合にもルールをつくっていくことが大事だということと運動量から考えて2時間に設定した、利用時間ごとの実態は把

握していない等答弁がありました。

本議案につきましては、利用者の把握がされていないとして反対討論があり、起立採決の結果、賛成多数をもちまして可決をいたしました。

次に、議案第45号につきましては、全員賛成によりこれを可決いたしました。

次に、議案第46号につきましては、利用状況について減少が心配されるがどうか、また利用の増大を図る方策について説明を求めましたところ、用途別利用件数では過去3年間ほぼ同じである、現在サークル等が107件使用しているがコミュニティセンターの完成によりましてその1割程度が減少すると考えられる、なお利用の増大を図るために音響設備、内装、外装等改修を行うと同時に事業所などに通知をし、啓発を実施している旨答弁がありました。

また、11月は上半期ほとんど文化祭で使用するので、この月だけは休館日なしで実施できないかとの質問に対しまして、どうしても必要だということであればそのときに考えたい旨答弁がありました。

本議案に関しましては、従来から高いとの批判があるとして反対討論があり、起立採決の結果、賛成多数をもって原案どおり可決をいたしました。

議案の50号につきましては、全員賛成をもちましてこれを可決いたしました。

以上、文教民生委員会に付託されました議案につきまして、本委員会の審査の要点を申し上げます。満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。文教民生委員長の報告といたします。

○議長（石井 正君） ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

2番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○ 2 番 (田沢勝信君) 議案第 3 6 号 館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第 4 3 号 館山市立博物館条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第 4 4 号 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第 4 6 号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論をいたします。

議案第 3 6 号は、館山市手数料を 3 0 円から 5 0 円へ、1 0 0 円から 2 0 0 円に引き上げようとするものであります。

住民票について言えば 1 件当たりの人件費 1 7 3 円 1 6 銭、物件費 2 9 円 2 3 銭、職員の休憩時間等を勘案して総経費 2 2 3 円 4 0 銭との説明であります。物件費について受益者に負担していただくということは了とするものであります。人件費については本来税金で負担すべきものであります。これらの事務経費への国の基本財政需要額の算定基準は実際に要する経費と著しく乖離しております。したがって国の算定基準額是正を求める努力をより一層強めることを要望し、受益者負担拡大については賛成できません。

次に、議案第 4 3 号は博物館本館の開館に伴って分館との共通観覧料として 3 0 円を 5 0 円に、5 0 円を 8 0 円に、1 0 0 円を 1 5 0 円に、3 0 0 円以内を 5 0 0 円以内に引き上げ設定しようとするものであります。

博物館分館はいわゆる里見城として市内外の皆さんから見学され、親しまれてまいりました。しかし間もなく開館が予定される本館は文字どおり郷土の歴史、文化、風俗を広く掘り起こし、保護し、展示し、住民の皆さんにその理解を深めていただくとするものであります。そのことを考えるならば県立博物館同様に観覧料は無料を原則として社会教育行政の一環として内容の積極的充実を図るべきだと考えます。したがって観覧料の引き上げはすべきでないと考えます。

次に、議案第 4 4 号は、相撲場を除くすべての社会体育施設の使用料を引き上げようとするものであります。また使用料時間設定についても従来の最初の 2 時間までの使用料、あるいは超過使用料は 1 時間ごとまでの設定を一律 2 時間までごとにしたものであります。人件費を除く経費の 5 0 % を受益者負担でお願いしようとするものであります。2 時間までの使用

料は従来の20%から50%の引き上げであります。従来2時間以上3時間以内で使用していた利用者にとりましては改正後には使用料金が実に倍額に引き上げられる施設が、市民運動場では野球場、多目的グラウンド、庭球個人使用、東市民運動場では多目的グラウンド等出てまいります。利用時間によって使用料金の負担の度合いが著しく異なり、賛成しかねるものであります。

また、今回の使用料の引き上げは、社会体育施設の利用回転数が低いためとも言えるわけであります。したがって社会体育の積極的向上諸施策が講じられないまま受益者の負担が増大していくことは、社会体育施設の建設目的から言って賛成しかねるものと考えます。

次に、議案第46号は、市民センターの使用料金を値上げしようとするものであります。

文化、福祉、体育の増進を設置目的として、物件費を利用者に負担してもらうというのが従来からのことであります。しかし市民センター設立後社会体育施設の建設、あるいは今年度予定されるコミュニティセンターの開館等から言って、市民センターの使用目的の積極的位置づけが必要であります。議案ではそのことが従来のままであり、同じ目的でコミュニティセンター内の諸会議室使用の場合は無料、市民センター使用の場合は高負担を強いられるものになり、他施設との整合性を欠き、しかも諸施設の有機的利用に欠くものと言わざるを得ません。したがって市民センターの積極的活用の向上を図るという点から、議案には賛成できません。

以上をもって反対討論といたします。

○議長（石井 正君） 以上で2番議員君の討論を終わります。

次、1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 議案第36号館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について、第43号館山市立博物館設置条例の一部を改正する条例の制定について、第44号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、第46号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について、反対の討論をいたします。

いずれも料金の値上げを図り、市民に新たな負担を求めようとするもの

であり、市民の暮らしを守る立場から反対をいたします。

第36号は、住民票などの手数料を100円から200円に値上げをしようとするものでありますが、その論拠とされたものは住民票などの発行経費は223円になるからというものでありましたが、その経費の積算に当たっては人件費173円を含めて算出するなどしています。市職員の人件費などを料金に加算するこのやり方は絶対に認められません。

第43号は、博物館の料金を本館、分館の共通観覧料として150円にしようとするものでありますが、博物館の中心的機能を果たす本館は少なくとも無料を原則とすべきであります。

以上の諸点を特に主張し、反対討論といたします。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。

以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第36号館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第36号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって議案第36号館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第37号乃至議案第42号の各議案を一括して採決いたします。

議案第37号乃至議案第42号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって議案第37号乃至議案第42号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第43号及び議案第44号の各議案を一括して起立により採決いたします。

議案第43号及び議案第44号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって議案第43号及び議案第44号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第45号館山市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

議案第45号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって議案第45号館山市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第46号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第46号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって議案第46号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第50号昭和58年度館山市老人保健特別会計補正予算について採決いたします。

議案第50号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって議案第50号昭和58年度館山市老人保健特別会計補正予算は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第3、議案第47号及び議案第48号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました各議案は、ともに去る9月20日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長石井 謀君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長石井 謀君登壇)

○建設経済委員会委員長(石井 謀君) 御報告いたします。

去る9月20日開会の本会議におきまして建設経済委員会に付託されました議案第47号及び議案第48号につきまして、9月26日建設経済委員会を招集いたしまして議案の審査を行いました。その経過並びに結果について申し上げます。

まず、議案の慎重な審査の結果につきましては、それぞれ全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主な事項を申し上げます。

議案第47号について、牧場の概要及び運営の現況について説明を求めたところ、牧場は45年8月に開設した。全体の面積は62.76畝、ほとんどが借用地であり、借用期間は43年より20年間。施設として看視舎、牛舎、衛生舎、堆肥舎、農機具舎、牧草乾燥舎等、機械としてトラクター、トラック等を所有している。

運営については、正規職員2名、臨時職員3名がこれに当たっており、また預託頭数については月によって異なるが、90乃至93頭を飼育しており、預託期間は1カ年間、この間に受胎させ、畜主に返還している。

預託牛の許可条件としては、ホルスタイン種の雌牛で生後6ヵ月乃至9ヵ月のもので、入牧時において獣医師の立ち会いで集団に耐え得られるものと認めたもの及び家畜共済に加入すること、家畜伝染病予防法に規定する検査及び注射を受けていることとの説明があり、次に預託料については、現行月1頭1万2000円、57年度に要した物件費1853万6000円、これを月1頭当たりといたしますと1万6602円、人件費を含めると2万8024円との説明がありました。

続いて、安房畜産農業協同組合に管理を委託することとしているが、委託料の内訳について、また経営上赤字が出た場合、収益が出た場合の処理について尋ねたところ、委託料としては平年度においては人件費1.5人分相当額及び土地借上料を市で支払い、あとは預託料で運営をしてもらう。また、赤字が出た場合、あるいは収益が出た場合、いずれも畜協の責任において処理することになっている旨の答弁がありました。

次に、赤字になった原因について尋ねたところ、いろいろ原因はあるが、設立当時から人件費については市で負担、物件費については入牧者が負担することで使用料が設定されており、その後の飼料の値上げ等で赤字となっている旨の答弁があり、続いて52年度以降使用料を改定しなかった理由を尋ねたところ、畜産奨励委員会等で協議したが畜産事業における生産調整等の状況からして改正が遅れた旨の答弁がありました。

次に、借地料の内訳について尋ねたところ、地主18人、うち共有地10件、年間借上料197万7000円である旨の答弁がありました。

以上、建設経済委員会に付託されました議案について本委員会の概要を御報告申し上げます。満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。建設経済委員長の報告といたします。

○議長（石井 正君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論ございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより議案第47号及び議案第48号の各議案を一括して採決いたします。

議案第47号及び議案第48号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって議案第47号及び議案第48号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第4、認定第1号乃至認定第8号昭和57年度一般会計並びに各特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました各会計決算は、ともに去る9月21日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本決算に対し決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長松下正己君。御登壇願います。

（決算審査特別委員会委員長松下正己君登壇）

○決算審査特別委員会委員長（松下正己君） 認定第1号乃至第8号昭和57年度館山市一般会計及び特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る21日の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につき、27日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

本決算につきましては、すでに監査委員による監査の結果、予算執行は議会の議決事項にしたがって、その目的にそって、概ね適正に執行されたとの決算審査意見書が付されておるところであります。本委員会としては、さらに議会の立場から付託の趣旨を体し審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その主なる事項について御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出総務費であります。防災対策として避難場所が設置されているが、地震に伴う津波の発生に対し、現在の避難場所での安全性が確保されているかとの質問に対しまして、津波発生の場合内湾で海拔5 m、外海で10 m以上の場所に避難するよう市民に徹底したいと考えており、現在市内に41カ所の避難場所を指定しているが、このうち3カ所が該当するのでチラシ等により周知させていきたいとの説明がありました。

次に、コミュニティ事業補助金として地区集会所の設置等に対し補助しているが、地区集会所はコミュニティ活動の拠点として大きな役割を果たしているところであり、新設、補修等についてどのような基準で補助をしているか説明を求めましたところ、新築については39㎡以上の場合に補助率4分の1、限度額200万円、補修については主要部分の補修で20万円以上の場合に補助率4分の1、限度額20万円としてそれぞれ補助している。なお現在地域で使用している集会所も対象としているとの説明がありました。

次に、民生費であります。生活保護費の扶助費中医療扶助の減額について説明を求めましたところ、入院が少なかったことにより1件当たりの単価が低かったこと及び人員の減によるものであるとの説明がありましたが、実際には住民の医療負担が重いものになっており、高額医療費の一時貸し付け等も行われておる現況を考えると、なお医療扶助に該当するものもあると考えられるので、各機関連携の上、実態を十分把握され、対処されたいとの要望がありました。

次に、衛生費中、環境保全公社補助金が支出されておりますが、この補助金については今後も継続して支出する考えかについて説明を求めましたところ、赤字を一般会計で補てんするということは、市の財政力があればできるが、当市の場合まだやるべきことがたくさんある。負担の公平、行政の公平ということ考えた場合、基本的には人件費については市で負担し、ランニングコスト等は受益者負担で行うべきであると考えているとの説明がありました。

次に、水道費中、水道事業に対し繰出金が支出されているが、公営企業

に対する一般会計からの繰り出しについて基本的な見解を求めましたところ、水道事業に対する繰り出しについては、地方公営企業法に経費負担の原則として繰り出しすることができる経費が規定されており、合法的であると考えている。県、市からの助成を受けて経営を維持しているのが現状であるとの答弁がありました。

次に、労働費中、勤労者厚生対策預託金の活用状況について説明を求めましたところ、本年度組織労働者に対する住宅資金貸し付け18件、生活資金貸し付け378件、未組織労働者に対する住宅資金貸し付け3件、生活資金貸し付け13件であるとの説明がありました。

次に、農林水産業費であります、産業振興のための各種補助金が支出されているが、その成果についてどのように確認しているか説明を求めましたところ、農林水産業関係における補助金としては、事業関係、団体等の補助で約80項目あり、事業関係については技術者が立ち会い、団体等の補助金については決算書、申請書等で確認しているとの説明がありました。なお適正な事業の執行により効果を上げるよう要望いたしました。

次に、水産業費中、漁協合併促進事業補助金が支出されていますが、現在の状況について説明を求めましたところ、現在相浜組合と布良組合の合併を推進している。合併については組合の資産の内容等により困難な状況があるが、県の協力を得て話し合いを進めているとの説明がありました。

次に、商工費中、商工会議所補助金1810万円の内容について説明を求めましたところ、会館建設補助1250万円、小規模事業指導補助430万円、労務対策補助80万円、観光対策補助50万円であり、商工会議所57年度決算額の15.5%に相当しているとの説明がありました。

次に、観光費中、北条海岸、館山海岸に遊歩道が整備され市民や観光客に利用されているが、汐入川で遊歩道が分断されており、さらに有効な利用を図る上から両遊歩道を接続することについての考え方をたしましたところ、市としても遊歩道の一体化を考えて県に要望しているとの説明がありました。

次に、観光費における夏季海水浴場対策として支出した経費について説明を求めましたところ、夏季対策として賃金から備品まで集計すると1674万9000円になり、観光費の22.38%を支出した。さらに観光

まっりの経費を合わせると2224万9000円、約30%の支出となっているとの説明がありました。

次に、土木費中、道路台帳作成事業の概要及び現在の進捗状況について説明を求めましたところ、本事業は路線名、道路管理に必要な事項をすべて調査し、調書にまとめるもので、55年度から5カ年計画で実施しており、55年度、56年度において市街地を対象に、57年度、58年度において旧村地域を対象にそれぞれ空中写真の撮影、道路台帳の平面図の作製を実施し、現在約80%の進捗をみているとの説明がありました。

次に、住宅費であります。笠名市営住宅は軒数も多いし、集会施設建設の要望があるが、これに対する考えについてたどりましたところ、笠名住宅については改築を考えなければならないので、その中で検討していくとの説明がありました。

また、住宅使用料については、条例で定めるべきであると思うがどうかとの質問に対し、公営住宅法に住宅使用料については条例で定めなければならないとなっているが、この場合家賃の額を条例そのもので定める方法と条例で長に家賃の額の決定を委任する根拠規定を掲げる方法があり、いずれでも差しつかえないとされている。なおこの内容について十分検討したいとの説明がありました。

次に、消防費であります。常備消防の充実に伴い、消防団の将来の方向性に対する基本的な考え方について説明を求めましたところ、地域における歴史等もあり、統合等は非常にむずかしく、現状のまま進めていきたいとの説明がありました。

次に、教育費中、小、中学校児童生徒に対する就学扶助がなされているが、対象者の把握はどのようにしているか。また何人に対して助成したか。説明を求めましたところ、援助については学校申請に基づき、民生委員と相談の上、教育委員会で決定しており、対象人員は小学校121名で2.2%、中学校83名で3.1%であるとの説明がありました。

なお、対象者の把握にあたっては、学校だけの判断だけでなく、各機関との連携をもって的確にされるよう要望いたしました。

次に、船形小学校校舎防音改築工事が実施されたが、一部床板が波をうっていると聞くがどうかとの質問に対し、監査委員からも指摘を受

けたので業者に連絡し、なるべく早く修理するように指示した。原因については湿度が高いことが考えられているが、結論に至っていないとの説明がありました。

次に、歳入であります。特別交付税についてはどのような算定により交付されているか、なお財源として当初予測できないかとの質問に対しまして、特別行政需要として考えられるのが現年度発生災害、水源開発対策、消防関係などであり、その他詳細については把握できない。なお、従前から現実に幾ら交付されるかの把握がむずかしく、人事院勧告に対応する財源及び12月以降の補正財源として留保してきたが、今後財政事情の厳しい中で当初予算に組み込まなければならない可能性もあると感じているとの答弁がありました。

次に、国庫委託金中、民生費委託金の交付状況について説明を求めましたところ、拠出制国民年金市町村事務取扱交付金については経費の71.4%、福祉年金市町村事務取扱交付金については41%、児童手当事務取扱交付金については33%がそれぞれ交付されているとの説明がありました。超過負担の解消については従前から国に対し要望を続けているとのことであるが、なお強力な働きかけを要望いたしました。

次に、国民健康保険特別会計であります。年々被保険者の負担が増大していることにかんがみ、国の委任事務であり、本来国が負担すべき経費を交付されるようさらに積極的な働きかけを要望いたしました。

次に、水道事業特別会計であります。館山市水道は他の水道と比較して有収水量率が低いように思うがどうかとの質問に対しまして、57年度決算では館山市水道82.1%、三芳水道88.0%、安房郡市の8事業体の平均81.3%、同規模の水道事業体における全国平均79.5%であり、有収水量率を向上させるために漏水の早期発見、早期修理に努め、今後85%程度に向上させていきたいとの答弁がありました。

次に、国民宿舎事業特別会計であります。改築によってりっぱな施設もできたので、さらに経営努力をされ一般会計への繰り入れができるよう要望いたしました。

次に、討論を行いました。反対討論として、国の財政危機を地方自治体に転嫁しておることは自治権の侵害であり、超過負担の問題とともに国に

対し毅然とした態度をとるべきである。また保育料、使用料、手数料さらに国民健康保険の住民負担等の軽減を図るべきであるとの意見がありました。また賛成討論として、節間の流用、予備費の充用等若干の問題点はあるが、総体的に見て適正な執行がなされたと認められるとの意見がありました。

採決の結果、認定第1号一般会計決算、認定第2号国民健康保険特別会計決算については賛成多数をもって、認定第3号乃至認定第8号の各特別会計決算については全員一致をもって認定すべきものと決しました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の概要を申し上げます。満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして委員長報告を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 認定第1号昭和57年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対の討論をいたします。

昨年は、人事院勧告が凍結され勤労者の賃金上昇が抑えられる中で、増税、公共料金の値上げなど市民生活をめぐる困難はかつてなく増大をいたしました。

こうした中で、決算の認定に当たっては、昭和57年度の館山市政が市民生活を守るものであったかどうか問われなければならないと考えます。残念ながら、57年度決算は軍備拡大、日本列島不沈空母化を推し進めるために福祉、教育を切り捨て、大增税、公共料金値上げを押しつける自民党中曽根政治に追隨したものとなっており、この認定に賛成することはできません。こうした立場から次の諸点を特に主張し反対討論といたします。

第1点、市道舗装や消防関係などの地元寄付金は直ちに全廃すること。年々負担割合は減らしているとはいえ、このことは原則的に認められるものではなく市の責任は重大であります。

第2点、市民生活に直結する各種公共料金、くみ取り料などの値上げをしないこと。市民に公共サービスを安く提供することは市政の重要な役割であります。いたずらに受益者負担を掲げて市民への負担転嫁は認められません。

第3点、政府は人事院勧告の完全実施をすべきであり、市は県人事委員会の勧告を尊重するという言葉ではなく勧告どおり実施すべきであります。

第4点、保育園の超過負担は4年前から倍増し、57年度では約9000万円にもなっています。国の負担率はわずかに実質37%に過ぎません。これは国が地方自治体に対する責任をないがしろにし、その財政責任を地方自治体にすりかえてきたことであります。国民年金事務費など市政全般にわたる超過負担の実態を明らかにし、その解消を国に強く働きかけるべきであります。

第5点、教育委員会は準要保護世帯の認定にあたり福祉事務所、収納課、市民課などと連携をとり、就学援助の対象世帯の把握に漏れがないようにすべきであります。国の補助基準が全児童に対し7%の準要保護としているにもかかわらず、57年度決算では小学校で2.2%、中学校で3.1%に過ぎません。これは当市の各家庭が経済的に裕福であることを物語るものではなく、就学援助制度の趣旨が十分に理解されないためにその制度の活用がなされていないことを示したものだと思います。

以上の諸点を主張し、反対の討論といたします。

次に、認定第2号国民健康保険会計の決算認定に反対の討論をいたします。

国保税は対前年比14%アップとなっており、市民の負担はすでに限界を超えております。国保税の軽減を強く主張するところであります。

こうした点で、特に本年度は事務費の超過負担が解消されないばかりか本来老人保健法施行までの10ヵ月相当分が支給されるべき臨時財政調整交付金は6ヵ月相当分しか配分されなかったために、対前年比1600万円余の減額となっております。これらの負担は結局国保税として市民に転

嫁されたものとなっています。これらは本来国保加入者が負担する必要のない経費であり、国は事務費負担など正当に負担をすべきであります。

また、当面市は一般会計からの繰り入れを含めて加入者の負担の軽減を図るよう主張し、反対討論といたします。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。

以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第1号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。

認定第1号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって認定第1号一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第2号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第2号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。

認定第2号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって認定第2号国民健康保険特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第3号乃至認定第8号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第3号乃至認定第8号についての委員長の報告は認定すべきである

とするものであります。

認定第3号乃至認定第8号を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって認定第3号乃至認定第8号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第5、議案第51号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案の内容説明

○議長(石井 正君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第51号館山市教育委員会委員の任命について提案理由の説明を申し上げます。

館山市教育委員会委員でございます関 和雄君が昭和58年9月30日をもって任期が満了いたしますので、その後任として杉村芳枝さんを最適任と信じ任命したいと存じますので、皆さまの御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長(石井 正君) 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） よって、これより採決いたします。

教育委員会委員任命について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本件はこれに同意することに決しました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第6、議案第52号館山市名誉市民の称号を贈ることについてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案の内容説明

○議長（石井 正君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第52号館山市名誉市民の称号を贈ることについて提案理由の説明を申し上げます。

館山市名誉市民条例の趣旨に従いまして、館山市の発展に大きく貢献されました山口 康氏に、館山市名誉市民選考委員会の答申に基づきまして名誉市民の称号を贈りたく、市議会の同意を求めようとするものでございます。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） 御質疑を願います。

○1番（神田守隆君） 何点か質問いたします。

こうした名誉市民ということで、名誉市民条例の趣旨からするとかな

か社会の発展、文化の興隆、公共の福祉の増進というようなことをうたっているわけで、そうした趣旨からどうかということなのですが、ともするとこうしたものが政治家偏重で、政治家に対する永年勤続表彰まがいのものも大変多いように聞いておりますので、こうした点からお聞きするんですが、この推薦に当たっての基準についてお示しをいただきたい。

それから、これまで推薦をした名誉市民のうちに政治家といわれる人たちが——全体何名のうち何名が政治家なのかお聞かせください。

○市長公室長（斎藤武男君） お答え申し上げます。

名誉市民の選考の基準でございますけれども、これはあくまでも内規的なものでございますが、この内規に従いまして今回お願いしておりますのが、市議会議員の職にあった者、7期28年以上ということで、その要件としましてはおおむね75歳以上の者というようなことでお願いしてあるわけでございます。

それから、いままで名誉市民としてお願いしております方の——政治家ということでございますが、8名中6名でございます。

○1番（神田守隆君） いまの内規ということでそれぞれ7期28年という、そういう内規からということでありまして、それぞれ職業として選んでその道を踏んでいるわけで、政治家を7期28年やったから名誉市民だというようなそういう発想なり考え方というのは、それではほかの職業ならば何年やったら適用になるのかということも当然あるわけで、これはその道、その道を選んだ方のことでありまして、現実には市議会議員をやった場合には何期何年ということでそれぞれ永年表彰というような制度もあるわけですから、あえてそういうことをするということの意味というのはどこにあるのか、市長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 別に政治あるいは行政に携わったことにこだわらず、広く館山市の発展のために寄与した方という考え方でございますので、ただ、たまたま市議会議員の方々あるいは政治に携わった方は、市のいろいろな行政の面で寄与することが非常に多いという観点からこうした内規をつくっているわけでございます。

○1番（神田守隆君） この問題につきまして、選ばれた方のことを個人的にどうだ、こうだという判断の問題ではなくて、こうした内規のあり方

について問題にしたいと思うわけで、実際に 8 人のうち 6 人がこうした政治に携わった方ということで、政治家偏重ではなかろうかというふうに思うんですが、この結果について内規のあり方を検討するお考えはありませんか。

○市長（半澤良一君） 現在のところございません。

○議長（石井 正君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。

討論ございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午前 11 時 42 分

○議長（石井 正君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第 3 回市議会定例会を閉会いたします。

● 本日の会議に付した事件

1 議案第 36 号乃至議案第 52 号

1 認定第 1 号乃至認定第 8 号

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長 石 井 正

館山市議会議員 日 下 君 敏

館山市議会議員 流 山 源 次 郎

